第12回全国障害者スポーツ大会・陸上男子ソフトボール投げ第3位

全国大会つかんだ銅メダル

おさがわ
長川 貴信くん
久慈拓陽支援学校
高等部2年

第12回全国障害者スポーツ大会は10月13日～15日、岐阜県で開催され、本県代表の長川貴信くん（久慈拓陽支援学校高等部2年）が陸上競技男子ソフトボール投げにおいて、第3位に入賞しました。

6月2日に行われた第14回県障がい者スポーツ大会で、68㍍の自己ベストで2位に入賞した長川くんは、学校から選抜され県代表に決定。全国大会では1位を取りたい、その気持ちは日を追うごとに強くなり練習を重ねました。

「自分より先に投げる選手たちがいい記録を出してくるので緊張しましたが、自分の番では出せる力を出し切りました」と全国の大舞台を振り返る長川くん。記録は62㍍22で、見事銅メダルをつかみました。

「入賞したことはうれしかったけど、自己ベストではなかったことが悔しいです」。長川くんは喜びと悔しさ、両方の思いを話しました。

「来年の全国大会にも出場したいです。次こそは自己ベストでさらに上位に入賞するよう練習に励みます」。

次の目標を話す長川くんの目に迷いはありません。

秋の栄冠

Congratulation
秋の大会で大活躍の選手たち

第50回技能五輪全国大会・建築大工　敢闘賞

プレッシャーはねのけ入賞

二又 智洋さん
（長内町・21歳）
有限会社女澤工務店勤務

10月26日～29日に長野県で行われた第50回技能五輪全国大会に二又智洋さん（長内町）が県代表選手として出場。建築・大工の部門で2年連続の敢闘賞を獲得しました。

この種目は、課題図に示された複雑な形状の木造小屋組の一部を制限時間内に製作し、その技術・技能や出来映えを競います。

「二戸高等職業訓練校は11年連続入賞していたので、県勢の入賞を止めるわけにはいかないというプレッシャーがありました」と振り返る二又さん。昨年は同校の生徒としての出場でしたが、今年は社会人として会社の看板も背負い出場し、見事プレッシャーをはねのけて入賞となりました。「作品の出来栄えではもっと上位に行くと思いました」と同校の中村佐市講師は大会を振り返りました。

二又さんはこれからの目標を「五輪での経験を生かして仕事を頑張ります。来年の大会にも出場し、上位を目指します」と力強く話しました。

11月9日に行われた県訓練生技能競技会でも県知事賞を受賞。二又さんは確かな技術でさらなる上位を目指します。

久慈高校マンドリン部

INTERVIEW　来年への抱負

ミス カバーする演奏

部長・セロ
小松亜沙月さん（2年）

ミスもありましたが、自分たちも楽しく演奏ができました。次は演奏中に間違えても気持ちを切り替えて、ミスをカバーする演奏ができるように頑張ります。

演奏ぜひ聴きに来て

副部長・マンドリン
水無保乃香さん（2年）

これから、演奏の機会が増えるので、どんな舞台でも久慈高らしい演奏ができるようプライドを持ち続けていきたいです。ぜひ演奏を聴きに来てください！

冬 レベルアップ図る

ギター
坂下彩花さん（2年）

私自身はソロパートが練習を通じて一番の出来でした。冬に県大会で未熟だった部分のレベルアップを図り、一回りも二回りもうまくなった演奏をしたいです。

第35回岩手県高校総合文化祭・器楽コンクール最優秀賞

久慈高らしい演奏 五連覇を達成

第35回岩手県高校総合文化祭の器楽コンクールが10月26日、盛岡市で開催され、久慈高校マンドリン部が最優秀賞を受賞。会場いっぱいに美しい音色を響かせての五連覇達成となりました。

3年生の引退後、部員は2年生6人、1年生7人の計13人。新しいチームでは「久慈高らしい演奏でみんなを魅了する」を目標に掲げました。演奏する自分たちが楽しいこと、音楽に迫力があること、聴く人たちも楽しめる演奏であることが久慈高校らしい演奏と考え、練習を重ねてきました。

コンクール当日、久慈高の演奏は5校中4校目。部長の小松亜沙月さんは「五連覇のことはあまり意識しませんでした」と当時の気持ちを振り返りました。まずは楽しく、自分たちの演奏をしようという気持ちでステージに立った部員たち。練習を重ねてきた2曲を表情豊かに、そして楽しく演奏しました。13人の気持ちを一つにした演奏は、審査員や観客を魅了し、最優秀賞に輝きました。

顧問の吉田大樹先生は「直前の練習では不安な点もありましたが、本番は生徒たちの表情もよく、演奏を含め全体としての雰囲気も素晴らしかったです。もともと練習熱心な2年生が中心となりパートをまとめ、主体的に練習してきたことが結果につながったと思います」と生徒たちの頑張りをたたえました。

今回の受賞で、来年夏に長崎県で開かれる全国高校総合文化祭出場が決定した久慈高マンドリン部。全国の大舞台でより美しい音色を響かせようと、部員たちは今日も心を一つに練習を重ねます。